

クロノグラフタント

NO.44.

日本文部省圖書監修會書記局

529

五、十九 全国学生セネスと戦

御と日本学生に決起せん！

全明治の学友諸君

本府の立派なミナに育てる新たなる健闘と反帝戦に對して われわれは本日の「19年日露戰争」にて大に對する所の如きをもつて、それに答えるとしている。本府の力ニ本ジア侵攻は、ベトナム戰爭の敗北的前例によつて東南アジアにおける日本の地位は主義支配が危険的側面を呈してさうとに対する是様實況から察していることは間違ひまでもない。たゞしかしその結果、米朝は何等那能利を得る事が出来ず、かえつて北ベトナム解放軍車を力ニ於ジア内部に深入し押しあることによって、タイも戰争の場についただし、自らの手でイエニニニ戰争を発動化させてはいる。米朝はベトナム戰争の泥沼より脱け出そうとするればするほど、自己的の主義として不適によつて、ますます醜態を露す戰争へとつゝ進んで行くがるを得ない。である。この半島のソレーニマは日本内においても階層間に重大な分裂をひき起して、反帝斗争の再燃の高揚を観てはいる。これに対して日本府は主義は廣瀬政長政策によつて、日本内に諸々のひきみを出しつゝも、着実に工業生産力を伸ばすことにつつて、これまでのべつたら極端にあつていて日本を看過化するによつて日本を看過化の監督時代に終りをつぶ、純粹的正義の利害をつくり出してきてはいる。このことは正しく、日本又これを他の米朝の東南アジア支配に對して、現存的に存在するロシクマウト体制にてまりつつも、純粹的日本復讐運動を踏みにして自らの「アジアの主役」として軍事的にも政治的にもあつて意図してはいることには余るまい。日本府は主義はそれに向て日本内再編成を爲さとしなくも視覚に推し進んではいる。そのことは、88年の英國日露戦に於いてわれが明らかにしていつたところの内情であるが、現実的に存するロシクマウト体制にてまりつつも、純粹的日本復讐運動をしての政者階級は現在全くの危機的構造にあるわれわれの主張的任務は、このロシクマウト体制にて日本復讐運動の頭をもつて純粹せねばならぬ。二の大學生解体・反大學生運動とは、全英斗の反帝斗争を明確に宣傳分析、日本打倒の斗争想、反帝統一戦線形成へ向けて、ヨロシタリヤーとの普遍的連絡を立ちこゝに立の、われわれの任務にほかならぬ。わが明大全英斗は現在全くの危機的構造にあると言わねばならぬ。それは昨夜のヨリにおける日英の直接対決を通じ、日本の暴力に対する我々の相続的暴力の肩が反帝統一戦線を以てエント、コニミューーン型の運動に發展させる手で止揚できざる所かにといふ主張的原爆性にほかならぬ。大學解体・反大學運動の内実を得するといふべきで、國體を作業は、この限界性を突破し、全英斗を再編していくための要石であるが故に、われは初めはこの問題に取り組んでいかねばならぬ。

この二に點までが本研究、昨日サーケル會議において全てのサーケルに對して、サーケル統一戦線の形成を通じてサーケルを解体し、反大學創立に向けてサーケルヰオを提起した。そこでの謙恭を裏軸として徹底したサーケル解体を行つて、今後永続的サーケル會議を設立し、反大學創立委員会に発展させていくが先頭にわが社会科学科委員は立つであろう。

- ① 5月6日安東津戰を口々ケマウト体制制衡として斗い抜け。
- ② 安東津戦ノ反大學生運動を反帝統一戦線として創出せよ。
- ③ 全てのサーケルはサーケル解体・サーケルヰオ・全英斗再編にむけて、徹底した議論を開始せよ。